

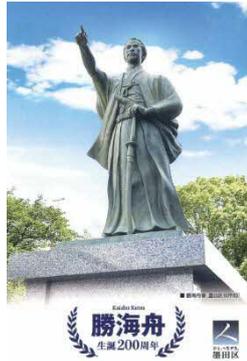


すみだ生まれの幕末の偉人 勝海舟生誕200周年

◆勝海舟生誕200周年

勝海舟は文政6年(1823)、本所亀沢町にあった旗本男谷氏の屋敷内(現在の両国公園)で誕生し、今年で生誕200周年の節目の年を迎えました。

コロナ禍の制限も解除されたこともあり、勝海舟顕彰会が中心となって開催している「勝海舟フォーラム」(第17回)を4年ぶりに墨田区で開催いたしました。



墨田区役所脇に建つ勝海舟像

◆本所の地で成長した海舟

16歳で家督を相続した海舟は本所の地で武芸・学問に打ち込み、剣術は従兄である男谷精一郎信友に就いて指南を受け、次いで中津藩士島田虎之助に師事したといわれています。

そして、天保13年(1842)頃、福岡藩士永井青崖(せいがい)に入門し

て蘭学を学び始めたといわれます。

また、剣術や蘭学に取組む一方、向島の弘福寺に座禅修行に通い、精神の鍛錬にも努めたようです。

◆幕末期の活躍

嘉永6年(1853)、アメリカ東インド艦隊を率いるペリーが蒸気船で浦賀(神奈川県)に来航し、鎖国を続けていた日本に対し開国を迫る事件が起きます。

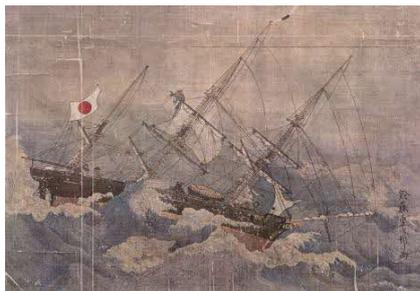
人々は黒船の威容に驚き、江戸幕府にも大きな衝撃を与えました。苦悩する幕府にあって老中の阿部正弘は大名から庶民まで広く意見を求めました。

蘭学を学び西洋の知識を得ていた海舟は、身分を問わない有能な人材の登用や軍艦の建造等を書いた「海防意見書」を提出し、これが認められ、安政2年(1855)、幕府が設立した長崎海軍伝習所で技術を学び、万延元年(1860)、咸臨丸の艦長として太平洋の横断に成功し、サンフランシスコに到着

することができました。

渡米の目的は日米修好通商条約の批准書交換であり、遣米使節団として外国奉行である新見正興が乗船するアメリカの軍艦ポーハタン号の随行役として航海訓練を兼ねたものであったといわれています。

一行はサンフランシスコで大歓迎を受け、アメリカの近代的な町や進んだ産業技術を目の当たりにします。帰国後に軍艦奉行となった海舟は、神戸海軍操練所の建設を進め、日本全国から人材を集めました。



咸臨丸烈風航行の圖
(『万延元年遣米使節図録』所収図)
国立国会図書館所蔵

◆幕府の終焉と江戸城無血開城

慶応3年(1867)、二条城で江戸幕府第15代将軍徳川慶喜は大政奉還によって政権を天皇に返上し、江戸幕府の歴史は幕を閉じます。

慶応4年(1868)1月、

鳥羽・伏見の戦いで、旧幕府軍は新政府軍に大敗し、慶喜は大坂城から江戸に戻ります。慶喜は朝敵となり、新政府軍は慶喜追討のため、東征軍を江戸に向けて進撃させます。東征軍は江戸城総攻撃の日を同年3月15日に決めましたが、それに先立ち海舟は、江戸城総攻撃を中止させるため、同年3月13日、14日の2日間にわたり、東征軍参謀西郷隆盛と交渉談判しました。

会谈の結果、江戸城総攻撃は中止され、東征軍に明け渡されました。江戸城無血開城は海舟の偉業のひとつとなりました。

幕末の動乱を生き抜いた海舟は、幼少の頃から剣術と禅を学び、直心影流(じきんかげりゅう)剣術免許皆伝になったほど剣術に秀でていましたが、人を切ったことのない平和主義者であったといわれています。日本の平和を願い、江戸の町を戦禍から救い、明治維新から近代日本へ歴史を繋いだ海舟の偉業を顕彰し、今後も「勝海舟フォーラム」等を通じ、皆様と共に学んでいきたいと思

(勝海舟顕彰会)

会長 廣田健史

開館25周年！ すみだ郷土文化資料館



資料館所蔵の浮世絵をモチーフにした装飾画(施設外壁)

すみだ
郷土文化
資料館
SUMIDA
HERITAGE
MUSEUM



資料館のロゴマーク

◆千葉大学との連携で
ロゴマーク作成、外壁を装飾化
大規模修繕工事では、空調設
備や照明などを更新したほか、
千葉大学デザイン・リサーチ・
インスティテュート(dri)
と連携して資料館のロゴマーク
を作成、外壁に装飾画を施すと
ともに常設展示パネルの一部を

◆約半年間の修繕を終え3月に
リニューアルオープン
すみだ郷土文化資料館は、
長い歴史と伝統を持つすみだ
の郷土文化を後世に伝えること
にも、貴重な歴史・民俗資料等
の収集・保存・展示を目的に
平成10年4月に開館し、今年で
25周年を迎えました。この間、
設備の老朽化が進んだことか
ら、令和4年9月から約半年間
にわたり臨時休館して大規模修
繕工事を実施し、今年3月29日
にリニューアルオープンしまし
た。

刷新するなど明るく快適にご覧
いただけるようになりました。
また、入口付近に大型モニ
ターを設置し、開催中の展示資
料を画像で紹介しています。

◆資料館ボランティアによる
展示解説

すみだ郷土文化資料館では、
区民を中心としたボランティア
の方々常在に資料館の事業を支
えています。平成10年の資料館
開館当初に実施したボランティア
養成講座の修了者によって
「すみだ郷土文化資料館ボラン
ティアの会」が設立され、資料
館の展示作業の補助や資料の整
理、来館者への展示解説、小学
生への民具体験指導など、資料
館の仕事を幅広くサポートして
います。

また、資料館のサポートのほ
か、それぞれの地域の歴史や特
色を学ぶため、毎年、春と秋に
史跡散策や見学会を行うなどの
自主活動も行っています。ボラ
ンティア養成講座は、第6期ま
で行われており、現在32名の会
員が活動しています。

●個人向け展示解説

毎月第3日曜日の午後1時から午後4時まで
行っています。展示解説を希望される方は
当日直接会場にお越しください。

●団体向け展示解説

20名以上の団体を対象に、団体向けの展示
解説を行っています。展示解説を希望する
日の1か月前までに電話ですみだ郷土文化資
料館までお申し込みください。

◆展示を通して歴史再発見の旅を

今年度後半の展示として、学
校連携展「すみだの昔のくらし
と道具」(11月3日から令和6
年3月3日まで)、特集展示
「コドモの世界―江戸東京のあ
そびとまなび―」(10月7日か
ら令和6年2月4日まで)を開
催しています。

このほか、2階常設展示で
は、東京空襲を体験された方々
が自ら描いた空襲体験画や、明
治時代末期のお花見の様子を再
現したジオラマなどをご覧いた
だくことができます。ぜひ、す
みだ郷土文化資料館で歴史再発
見の旅をしてみませんか。

(すみだ郷土文化資料館)

すみだ郷土文化資料館

【所在地】墨田区向島2-3-5

【アクセス】

- 東武スカイツリーライン「とうきょうスカイツリー」駅から徒歩約7分
- 都営浅草線「本所吾妻橋」駅から徒歩約8分
- 区内循環バス北西部ルート「見番通り入口」停留所から徒歩約5分

【開館時間】午前9時から午後5時(入館は4時半まで)

【休館日】毎週月曜日、毎月第4火曜日(休館日が祝日の時は翌平日)

【入館料】個人100円、団体(20人以上)80円

中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳をお持ちの方とその介助者は無料

【問合せ】すみだ郷土文化資料館 ☎03-5619-7034



ボランティアの会の勉強会の様子